

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 75 号 平成 24 年 2 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒4888888

尾張国中津市北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## VPD(vaccine preventable disease)予防の啓発



小児科副部長 桑原 里美

日本は、ワクチン後進国・VPD 輸出国ともいわれています。そのためここ数年、頻回に予防接種法に関しては変更されてきていますが保護者には十分伝わっていないようです。

### ① ワクチンの早期開始・種類増加

数年前まで4ヶ月健診でBCG接種することからワクチンが開始され、スケジュールもそこで説明されました。しかし今は0歳で接種するワクチンは種類もふえたため接種回数は17回以上となり生後2ヶ月でワクチン接種デビューが必要となってきました。なんとといってもこのスタートダッシュが肝心です。生後2ヶ月で肺炎球菌・ヒブ・ロタ、生後3ヶ月でDPT、生後4ヶ月では集団接種のBCGが控えています。

### ② 日本脳炎ワクチンの変更

積極的接種勧奨が中止されていましたが今はそのときに受けられなかった子供たちのために特例措置として19歳まで接種できます。この変更を知らない学童期の子どもをもつ保護者たちはたくさんいます。

### ③ 水痘・ムンプスワクチン

どちらの疾患も近年一年中流行しています。ワクチンをうつよりも自然感染がよいと信じている保護者が多くみられます。

### ④ ポリオワクチン

不活化ポリオワクチンの導入に関してはまだ一定した指針が示されていません。しかし不活化ポリオワクチンをうつために現在の生ポリオワクチンを見おくる保護者が増えてきてポリオの抗体保有率の低下が心配されています。

この他にもワクチン接種の変更・導入などが多くあります。そのために、保護者および将来保護者になる世代を診て頂いている内科の先生方、ワクチン接種啓発へのご協力をよろしく申し上げます。ワクチンのスケジュール作りは小児科医の大切な仕事の一つと考えていますので詳細はご連絡いただければ対応します。当院ではワクチンは月曜日・火曜日・金曜日の午後予約で施行しております。初診のかたも予約できますのでどうぞご利用ください。

# 男性性感染症(クラミジア、淋菌)の診断治療のポイント



泌尿器科部長 松原 廣幸

若い方から年配の患者さんまで、「尿道の先から膿が出る」との訴えで、いらっしゃる方をお相手されたことはありませんでしょうか？

そうした場合、「泌尿器科に行きなさい」ではなく

開業医の先生でも淋菌やクラミジアの治療は可能であるというご説明をします。

淋菌(*Neisseria gonorrhoeae*)感染症

性器クラミジア(*Chlamydia trachomatis*:トラコーマの原因微生物です)感染症

は両者とも、尿道に感染します。この二つが主な原因菌です。検尿で白血球の増多を認めます。

	淋菌	クラミジア
感染後の発症時期	感染後潜伏期は2~9日 (クラミジアより早く発症)	感染後潜伏期は7~21日
症状	膿性多量の黄白色分泌物、排尿時痛 (ドロドロ)	漿液性~粘液性の分泌物で多くはない、排尿時痛も軽い。無症状もあり。 (淋菌より症状は軽い。サラサラ)
診断	膿のグラム染色、鏡検、培養 初尿検体で核酸増幅法(PCR など)	初尿検体で核酸増幅法(PCR など)
治療	①ロセフィン1g+生食100ml 単回投与 ②ケニセフ1g+生食100ml 単回投与 ②トロビシン2.0g 筋注 *ニューキノロン、テトラサイクリンの耐性率は80%、第3セフェムは30~50% **経口薬としてはセフspan200mgx2x3日間だが無効例は30~40%	①ジスロマック1000gx1、1日のみ ②ジスロマック SR ドライシロップ2gx1、1日のみ ③ビブラマイシン100gx2x7日間 ④クラリス200mgx2x7日間 ⑤ミノマイシン100gx2x7日 ⑥クラビット500mgx1x7日間 ⑦オゼックス150mg x2x7日間
その他	淋菌感染の20~30%はクラミジアを合併している。	

以上の点に注意して診療を進めてみて下さい。

注1 治療終了2~3週後、必ず淋菌・クラミジアの消失確認のため、培養や核酸増幅法などで、陰性の確認をしてください。

注2 パートナーの治療も同時に進めてください。